日本の戦闘者

荒谷 卓（あらや たかし）
生年月日：昭和34年秋田県出身
略歴：昭和57年東京理科大卒、陸上自衛隊に入隊、第19普通科連隊、調査学校、第1空挺団、第39普通科連隊、陸上幕僚監部防衛部、防衛局防衛政策課戦略研究室等に勤務。平成16年特殊作戦群初代群長に就任。平成20年依願退職（1等陸佐）。
海外留学：ドイツ連邦軍指揮大学及び米国特殊作戦学校。
平成21年9月～30年10月、明治神宮武道場至誠館館長。
平成30年11月三重県熊野市に「国際共生創成協会：熊野飛鳥むすびの里」設立、代表を務める
著書：『戦う者たちへ』『サムライ精神を復活せよ』『特殊部隊vs.精鋭部隊―最強を目指せ』並木書房／『自分を強くする動じない力』三笠書房／『日本の特殊部隊をつくったふたりの“異端”自衛官―人は何のために戦うのか！―』ワニプラス
熊野飛鳥むすびの里のHPアドレス
https://musubinosato.jp/

国家として、日本の正史をまとめた「六国史」は、『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』である。その後の日本正史は未完の状態であったが、明治34年（1901年）から現在まで、東京大学史料編纂所において『大日本史料』として刊行が続けられている。100年を超える大事業となり、これまでに431冊（2024年12月現在）が刊行されている。近代に入り、『孝明天皇記』『明治天皇記』『大正天皇実録』『昭和天皇実録』が編纂されている。これらが、日本の正当な歴史書である。これは、熊野飛鳥むすびの里「士卒復覚塾」に収めている。

その最初の『日本書紀』に、『八紘為宇の詔』が記述されている。ここからは、前回までの説明の続きで、この詔の最後の部分について説明する。ここが最も大事なところだ。

然して後に六合を兼ねて以て都を開き

八紘を掩ひて宇と為むこと亦よからずや

夫の畝傍山の東南橿原の地を観れば蓋し國のもなかか。

治るべし

この文章の意味は「このようにして（国民の心をしろしめし祈る天皇と報恩感謝の念で力を尽くす国民の心の絆をもって）、国の都を開き、天の下に一つの家のような国を創り為すことはよい事ではないか。畝傍山の東南にある橿原はちょうど大和の中心である。ここで国家を治めていこう。ということだ。

橿原の図（若き武人）堂本印象作。橿原神宮に奉納。橿原神宮は神武天皇を祭っている。

「八紘為宇」。むすびの里開設5周年記念行事が2023年11月4日に行われた。

八紘を家と為し、和する社会の実現を掲げた神武天皇は、皇位継承において重大な決定を下した。東征に同道されて、ともに苦労してきた皇子の手研耳命（たぎしみみのみこと）は、同じ天照大神の系譜である吾平津姫（あひらつひめ）との間に生まれた皇子だった。通常なら、この手研耳命が後継ぎとなるところだが、天神天皇は、手研耳命ではなく、姫蹈鞴五十鈴余理比売（ヒメタタライスケヨリヒメ）との間に儲けた皇子の神沼川耳命（かむぬなかわみみのみこと）を第二代天皇に指定した。姫蹈鞴五十鈴余理比売は、大和の国の神の御子といわれた乙女で、父親は国津神（くにつかみ）である三輪大社（みわたいしゃ）の御祭神大物主神（おおものぬしのみこと）とされている。つまり、東征で服従させた側の姫との間に生まれた子を皇位継承者としたわけだ。これが、第二代天皇である綏靖天皇（すいぜいてんのう）である。勝った氏族が敗れた氏族を滅ぼすのではなく、敗れた氏族の血を引く皇子を二代目天皇にし、戦った者同士が相携えて国をつくっていく意思を示されたわけだ。

だから、日本の正史である『日本書紀』にも、御皇室の家訓書たる『古事記』にも、神武天皇が大和に都をひらかれる以前の史話として、宇宙創元から日本国土の形成、そして国津神である大国主神（おおくにぬしのかみ）様の国造りの物語が滔々と語られている。アメリカの歴史書がインディアンの歴史から記されているようなもので、他の国にはないことだ。

日本文化の精華である「和」の精神は、家から始まる。家に生まれ、家に活き、家族に成る。和する文化は、先ずは家で育まれる。そして、最後は死んで祖先の列に仲間入りして家の歴史に加わる。時という縦軸の和に帰属することになるわけだ。息子は父と代わり、孫は息子と代わり家を継ぐ意識が、世代間の途切れることのない理想の継承につながった。したがって、日本の社会システムの主要な安定軸は歴史意識であり、家の歴史が主軸となって、里との関わりの中で里人になり、国とのかかわりの中で日本人に成っていく。家族意識がないまま最初から国民意識などというのは生まれてこない。それは、近代国家のプロパガンダによって人工造成されたものだ。

つまり、日本という国は、家の相似拡大型であり、「家の大黒柱がおやじ」で、「村の長（おさ）が村長」で、「国の親が天皇様」だ。家のおやじが常に家族のことを思い家を守り、村長が村人を思い村を守り、天皇様が国民を思い国を御守りする。日本はそうなってんだ。だから、日本では国の事を「国家」という。国をもって家と成す。家のような国、家族のような国民だ。

家では、親から「世のため人のために力を尽くせるようになるんだよ」「人様に迷惑をかけてはいけないよ」と教えられ、子供のころから帰属社会に貢献する意志を育んできた。村の生活では、一人一人の器量に合った相応しい村の役を与えられ、村の公務に従事する。公共心の育成だ。一人前になれば、家庭の事情や才気に応じて、家、里、国の一員として力を尽くし志を成し遂げる。今どきは自分のために仕事を選択するから、社会がぶっ壊れちまう。日本では、仕事は社会のために自分が何ができるかで決める。 家のため、あるいは里のため、はたまた国のために力を尽くして仕事をすれば、人生をやり遂げるころには、志を遂げたという幸福感が生まれる。家や村や国は、その人が成し遂げた仕事に感謝する。そうすれば、個人の幸福と社会の幸福が一致する。自分も一生を有意義にやり切ったという思いと、周りの人から「あの人は本当によくやってくれた」という感謝とで、気持ちよくあの世に逝けるし、歴史に名を刻む。こんないい社会が日本だよ。

「八紘為宇」の考えは、日本人の宇宙観そのものだ。「八紘」すなわち宇宙の万物万象は一元であるという考えだ。宇宙ができて、太陽系ができて、地球ができて、日本ができた。人間は最後の生成物だ。しかも最初から集団で個ではない。だから、我々は初めから八紘（万物万象）を家として生まれている。これが日本人の常識だ。

しかし、日本の憲法の普遍的価値観を規定したアングロサクソンという生き物は、どうやら考え方が全く違うらしい。人間個人が最初に在って、その権利を基に全体を考える。こいつらの価値観は、個々別々の完全多元主義になっている。多様性と多元性は全く異なる。多様性は同じ人間であることを前提とし、その言語や慣習の違いのことを言う。多元性は、元から違うという考えで、同じ人間ではないという発想だ。だから、彼らは、差別主義を正当化するため個人主義・自由主義を強調し、平気で他人から略奪し、他人を殺し、自己利益だけを考える「Wiener takes all」をモットーとしている。

こいつらが、一番恐れ、憎み、存在を消滅したかった生きものが日本人だ。自分達の主義、思想、全てと正反対だからだ。大東亜戦争及びその後の戦争裁判という名目の日本人虐殺は、ナチスのユダヤ人虐殺以上だった。大西洋横断で有名なアメリカ人リンドバーグは、ドイツ降伏後ナチスによる集団虐殺現場を見学した時の日記で「どこかで見たような感じ、そう南太平洋だ。爆撃後の穴に日本兵の遺体が腐りかけ、その上から残飯が投げ捨てられ、待機室やテントにまだ生新しい日本兵の頭蓋骨が飾り付けられているのを見たときだ。ドイツはユダヤ人の扱いで人間性を汚したと主張する我々アメリカ人が、日本人の扱い方で同じようなことをしでかしたのだ」と記した。

おいみんな。いい加減止めようぜ。俺たちの先祖を虐殺し、俺たちの歴史をどぶに捨て、俺たちの誇りと国家を踏みにじった奴らの価値観に付き合うのは。

世界中のどの国でも、自分の国の建国の歴史と理念は、子供のころから諳んじて言えるものだ。言えないのは、不法移民かビジネス長期滞在者か、英米のように荒んだ国に生まれてまともに学校にも通えなかった連中ぐらいだろう。

俺も、海外留学やら武道指導などで、諸外国の連中とはよく会話をしてきたが、自分の国の自慢話で盛沢山だったよ。スロバキアの中佐が自国紹介で「ヨーロッパの中心の国スロバキアについて説明をします」と切り出した時、俺は拍手をしたよ。こうでなくちゃ国なんてやってられねえだろ。経済がどうの、軍事力がどうのなんていうデータなんかどうでもいい。『俺の国が一番だ！』と思っているから国が成り立ってんだぞ。少々控えめに自分の国の事をいう奴もいるが、少なくとも、自分の国の成り立ちについて、全く知らないなどという人にはあったことがない。

ところが、日本だけは、国民の多くが自国の成り立ちについて全く知らない。知っているやつは、学校で習った日本の悪口雑言ばっかりだ。これじゃ国の体を成していないわけだ。

昭和の時代、国は完全に英米グローバリストに奪われ、日本人は自分達の国家の価値観をぶち壊す大罪を犯してしまった。このままではご先祖様に申しわけが立たねえ。そろそろ、奪われた祖国日本を取り戻さねえとな。

戦艦「ニュージャージー」艦上で、米軍の服に着替えるために体を洗わされる日本人捕虜。1944年12月。

米軍によって襲撃され惨殺された病院の日本兵。

44-45.indd 44-45 2025/06/23 17:19